

～ スタートアップ版 ～

笠間栗ごはんまいプロジェクト

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 3年 松崎 薫

連携先

NPO法人グラウンドワーク笠間

顧問教員

稲葉 梨恵 (キャリアセンター)

参加者

谷口 智紀 (工学部機械工学科 3年)

野村 明里 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)

松崎 薫 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)

森 みなみ (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、2017年12月3日に「笠間民芸の里」で開催された、笠間×国際交流×学生がテーマのイベント「マルシェ・ド・カサマロン」において笠間の栗を使用した栗ごはんを提供し、また、イベント運営に関わったプロジェクトである。目的は、笠間の特産品や笠間・日本の魅力を発信し、地域活性化と国際交流を試みることである。

連携先のNPO法人グラウンドワーク笠間は、イベント会場であった「笠間民芸の里」で「グランパとグランマのお店」を運営しており、「マルシェ・ド・カサマロン」を主催した団体である。NPO法人グラウンドワーク笠間の代表である埴茂様と野村が連絡を取り合い、また、メンバーで笠間民芸の里を訪

ねて打ち合わせをすることで連携した。

埴様をはじめとしたNPO法人グラウンドワーク笠間の方々には、栗ごはんの材料を用意していただいたり、作り方を教えていただいたりした。また、栗ごはんの販売場所も提供していただいた。

主な活動は11月16日と12月1日から3日に行った。11月16日は、NPO法人グラウンドワーク笠間と栗ごはん製造の打ち合わせ、会場確認を行った。12月1日は使用する栗の選別や皮むきのための下準備を行い、12月2日には栗の皮むきのほか会場清掃、装飾を行った。国際交流も兼ねたイベントであったので、国旗などを使用し内装を工夫した。12月3日は栗ごはんの製造・販売、レジ、接客手伝い、第二部会場準備、片付け等を行った。

プロジェクトの成果報告

私たちは今回、栗ごはんを35パック製造し、販売したがすべて完売することができた。買っていただいた方に笠間の栗をアピールすることができたと考える。また、万国旗やモール、和柄の布などで会場装飾を施し、会場を華やかにすると同時に、イベントの国際交流を視覚的にアピールできたのではないかと考える。

今回は約1ヶ月と準備期間が短く、物品の購入や各機関との情報共有がスムーズにいかなかったことが反省点である。今後は、準備期間を2ヶ月ほど充分にとり、素早くゆとり

をもって物品購入や情報共有を行ってより良い企画やイベントを作りたい。

発表会において、この活動を継続していったらよいと声をかけていただいたことも大きな成果であった。活動を継続することでイベント自体の知名度の上昇、地域への定着など更なる発展が期待できる。

今後の課題としては、「栗は笠間ではなく岩間だ」との意見が多数見られたことから、岩間にも範囲を拡大させたい。また、イベント継続のための後継者を探し、販売価格・分量・保存方法を改善して行きたい。